

施策評価表

評価対象年度	令和 元 年度
1次評価日（課長等）	2年 7月 20日
2次評価日（部長等）	2年 7月 22日

1 施策の概要

施策名	居住環境の充実	コード	12-1
この施策の主な内容	住まいの適切な維持管理と有効活用、居住環境の形成、住宅セーフティーネットの充実、安全・安心な住まいの整備、都市景観の創造		
第5次総合計画におけるこの施策の目的	生活環境に影響を及ぼす空き家の発生抑制や耐震診断・改修を促進します。高齢者・子育て世帯等の住宅確保のための住宅セーフティーネットの検討と老朽化が進む市営住宅の適正管理に努めます。		
担当部課	部 建設水道部	課等 都市計画課	作成者 小口 智行

●施策の実施内容（D0）

2 施策指標の達成状況

* 第5次総合計画における目標指標の達成状況(前期基本計画:元年度~5年度)

施策指標名	単位	29年度	30年度	元年度			2年度	5年度
		実績値	実績値	目標値	実績値	達成率	目標値	目標値
① 住宅の耐震化率	%	74.9	75.5	77.7	76.1	97.9%	78.6	92.0
指標説明	岡谷市耐震改修促進計画に基づく住宅の耐震化率							
② 住宅・宅地の整備に関する市民満足度	%	14.7	12.2	-	-	-	-	15.0
指標説明	岡谷市民アンケート調査による、住宅・宅地の整備に関する満足度							
③ 住宅・宅地の整備に関する市民不満足度	%	15.8	22.0	-	-	-	-	19.2
指標説明	岡谷市民アンケート調査による、住宅・宅地の整備に関する不満足度							

3 施策全体にかかる合計コストの推移

* 項目6より「直接事業費」「人件費」の合計を自動表示

単位：千円

	29年度	30年度	元年度	2年度(予算)
直接事業費	80,708	83,163	147,474	185,423
人件費	18,720	18,720	20,000	20,000
合計コスト	99,428	101,883	167,474	205,423

●施策の評価（CHECK）

4 施策の現状評価

* 元年度に施策の目的がどこまで達成できたか、施策の進行状況に関する順調／不調の判断

市営住宅管理は「岡谷市市営住宅長寿命化計画」に基づき、管理・修繕を行っていく。また、老朽団地住替事業を実施し、住民の安全確保と居住環境の向上及び市住管理の効率化を図りました。耐震診断事業の診断件数は21件であり、推定耐震化率は76.1%(R元年度末)となる。耐震改修促進計画も見直しを行い平成28年度から令和2年度へ延長となった。都市景観事業は、都市サインの維持修繕を行った。景観形成誘導事業は、景観計画の市民、関係機関等への意識の醸成が図られ、確認申請の事前段階で意匠、色彩等についての窓口での相談がきているが、業者の認識も高くなってきている。

* 岡谷市の現状のうち、この施策にとって強み／弱みとなる要因

岡谷市の強み	産業振興に力を注ぎ、働く場の確保、人口定着を図っている。 可住地面積が狭く、投資効果、効率が高い。 豊かな自然環境、歴史的景観資源に加え、製糸産業が日本の近代化に寄与した産業遺産等が岡谷市の独自の文化的、歴史的資源として存在する。
岡谷市の弱み	人口減少、高齢化社会の進行による市街地全域のスポンジ化（空き地、空き家の増加） 人口減少に伴う未管理空き家が景観を阻害し、歴史ある景観資源が失われつつある。

5 今後の外部環境の変化

* 令和3年度以降に予測される社会・経済などの環境変化のうち、この施策に具体的に影響する要因

有利に働くもの	各地域がそれぞれの特徴を活かした自律的で継続的な社会の創生に向けた取り組みが展開され、住生活環境の整備が望まれている。 シルクファクト、近代化産業遺産が観光資源として活用され始めている。
不利に働くもの	生活様式の変化、価値観の多様化により、画一的な住環境整備が難しい。 景観の誘導を資本主義の経済活動の妨げとの考え方もあり、地域として守るべき景観、育む景観の普遍的な価値の見極めが難しい面がある。

●改善の内容 (ACTION) / 次年度の計画 (PLAN)

6 令和3年度 施策を構成する事務事業の方向性

●基本的な考え方

* 優先して実施する分野＝優先度がA・Bの事業：拡大する事業や新規事業の内容、優先的に実施する理由
* 見直しを行う分野＝優先度がC・Dの事業：見直しの内容、見直しや廃止をする理由

優先して実施する分野	<p>市営住宅管理事業は、長野県住宅供給公社の管理ノウハウを活用し、住民の利便性の向上を図ると共に、経費の節減、効率的な運営に努める。</p> <p>耐震診断事業は、地震災害時における住宅の倒壊被害の低減、緊急輸送路の閉塞防止と市民の生命と安全を守るための重要な事業であり、積極的に周知し、耐震化率の向上を図る。 大阪北部地震被害を受け、ブロック塀等の倒壊を回避するため、取壊し補助を実施 「岡谷市空家等対策計画」に基づき、空き家の利活用や除却に向け積極的に対応していく。</p> <p>都市景観整備事業は、都市景観形成の核となる公共施設などを誘導する都市サインの整備であり、まちの顔となるひとつの要素である。利用者の利便性を図るとともに、まちのイメージづくりとして整備を進める。</p> <p>景観形成誘導事業は成熟・安定期の都市には大切な事業であり、ストック活用、魅力あるまちづくりの上で活用すべき手法である。</p>
見直しを行う分野	

●令和3年度の優先度

* 方向性が「継続」の事業についてA~Cを、「新規事業」の事業についてAをランク付け。方向性が廃止、完了、統合となっている場合は「-」を付する。 直接事業費・人件費の単位：千円

No	新規事業	様式	実施義務	事務事業名	成果指標		直接事業費			妥当性	方向性	優先度
					指標名	単位	29年度	29年度	29年度			
							30年度	30年度	30年度			
							元年度	元年度	元年度			
2年度(目標)	2年度(予算)	2年度(予算)										
1		内部	その他	都市景観整備事業	-	-	-	510	400	-	継続して実施	B：現状維持
							-	510	400			
							-	499	400			
							-	500	400			
2		公共施設	あり	市営住宅管理事業	年間利用件数	件	478	77,867	8,000	標準	継続して実施	B：現状維持
							465	77,316	8,000			
							445	142,805	8,000			
							480	179,347	8,000			
3		一般	あり	耐震診断事業	耐震診断件数	件	9	576	1,440	高い	継続して実施	B：現状維持
							38	2,432	1,440			
							21	1,347	2,400			
							40	2,600	2,400			
4		一般	あり	空き家対策事業	C物件空家の改善数	件	9	1,500	8,400	高い	継続して実施	A：拡大
							10	2,709	8,400			
							9	2,627	8,000			
							8	2,766	8,000			
5		一般	あり	景観形成誘導事業	保全誘導件数	件	12	255	480	高い	継続して実施	B：現状維持
							6	196	480			
							6	196	1,200			
							6	210	1,200			